



2024年度 年主題〈さあ、漕ぎだそう〜奏でよう〜〉

0・1・2歳児 11月主題 「みつける／どれにしようかな」
月のねがい
 ◎お祈りやさんびかを通して心地よさを感じる
 ◎興味、探究心が深まり、活動的になる
 ◎たくさんの自然物に触れ、喜ぶ
 ◎生活の中で、やりたいことにじっくり取り組み関わり合う
 ◎神さまからのたくさんの恵みに感謝し触れて、遊びや生活の中に取り入れる

3・4・5歳児 11月主題 「感謝しつつ」
月のねがい
 ◎神さまがくださった恵みを礼拝や日々の生活の中で感謝する
 ◎友だちと遊ぶ中で思うようにならないことや自分とは違う思いがあることを経験する。また、相手を思っでの行動をしようとする
 ◎友だちや保育者と一緒になんかになりきって遊ぶ楽しさを知る
 ◎果物の味、たきびの煙、落ち葉の色合いなど五感を通して秋を感じる機会をもつ

うんどうかい大成功！！

10月5日に67回目の運動会を市民体育館で開催することができました。天候に悩まれた運動会となりましたが、昼食を家族で囲み、各クラスの今できることを精一杯保護者の方々にみていただいた運動会になったように感じます。運動会を開催するにあたって、児童公園の草刈り作業、当日朝の会場設営、実行委員の係の仕事、会場撤収、テントの片付け等保護者の方々のご協力をいただいてこそ大きな行事ができたと感じました。まことにありがとうございました！

翌週には、年中・長児が市民体育祭に参加し元気いっぱいのパルーン演技を見せてくれました。選手として参加された保護者の皆さんご苦労様でした。

2学期に入り、たくさんの行事を通して子どもたちの成長を感じている毎日です。ひかり組の子どもたちも、運動会では見せられなかった体操を、保育の中で全身で楽しんでいきます。

運動会が終わってからは、児童公園や園庭でバッタやちょうちょを追いかけの姿が見られるようになってきました。虫かごと虫網を手に、「キリギリス見つけた！」「任せて！捕ってあげる」と、年長の男の子たちが小さい友だちに捕ってあげる姿も見られます。友だちと一緒に絵本や図鑑を見ながら、「カマキリはバッタを食べるんだね」と話が盛り上がり、虫かごいっぱいに入っているバッタを見て、「草を入れてあげないとじゃない？」「砂は入れたらダメだよ」などとお世話をしようとする様子も見られます。自然がたくさん残っている環境の中で、虫に触れ合っている姿を目にして、保育者も嬉しくなる日々を過ごしています。

11月には持久走大会、12月にはクリスマス会と行事が控えております。感染症も広がる季節となりますので、しっかりと睡眠と栄養を取って元気に過ごしてまいりましょう。

江口

今月の聖句 「成長させてくださったのは神です」 1コリント書3:6

「寝る子は育つ」という言葉があります。医学的にもその真実性は立証されているので、子どもの身体的成長のためには睡眠中に分泌される成長ホルモンが欠かせないのです。けれども、子どもは寝かせておけば勝手に育つというわけでもありません。両親、兄弟姉妹、友だちなど、様々な人との繋がりの中で育っていきます。

昨今、日本の子供達をめぐる事件は増える一方です。幼い子供が両親から虐待され死に至る。若い女子大学生が、ネットで知り合った未だ知らずの男性を訪ね、無残に殺害されてしまう。中学生の集団暴行事件やいじめによる自殺など、社会の闇は深いのです。家庭環境の問題、学校現場の劣化、ネット社会の蔓延、児童相談所や教育委員会といった教育や福祉現場の疲弊など、課題が山積みされている一方で、そこには、「育てる」という根本的な問題が横たわっているように思います。子どもは、所有物や対象物ではありません。生きて人間そのものです。育てる者は決して傲慢にはなりません。子どもは、あなたのものでなければ、観察すべき対象物でもないので、生きて命そのものなのです。「育てる」とは、確かに誰かが植え、誰かが水をやるものです。けれども水はやりすぎれば、根は枯れるし、植え方が浅いと茎は倒れ、深すぎれば芽は出ません。なんとも育てるといふことは難しいものです。しかし、どれ一つ失敗はありません。何度も何度もやり直しながら、私たちは、本当に育ててくださるのは神であることに気づいていきます。その繰り返しが「育てる」といふことなのだと思います。

協力牧師 池田基宣

令和7年度入園説明会
11月16日(土)
13時30分より
1号入園願書受付開始
12月2日(月)
 ご紹介を宜しくお願いします！



11月の行事予定

5日(火)	下西小学校訪問(年長児)
7日(木)	11月生誕会(2才以上)
9日(土)	役員会
13日(水)	持久走試走・弁当日
16日(土)	持久走大会・職員研修(午後)
19日(火)	持久走予備日
27日(水)	給食バイキング(3才以上)
30日(金)	めぐみ組誕生会10~12月生

12月の行事予定

4日(水)	クリスマス会予行
5日(木)	弁当日
14日(土)	クリスマス会
18日(水)	もちつき大会
20日(金)	2学期終園式
28日(土)	弁当日



今年暑い日が長引いたせい、十一月と聞いてもピンとこない感じがします。雨の多かった十月が終わり、いよいよ秋晴れを楽しもうと楽しみにしていました。先日、絵本作家のせなけいこさんが亡くなられましたね。ちぎり絵を使った温かいタッチの独特の世界観。「ねないこだれだ」や「あーんあーん」を幾度も読み聞かせた方も多いことでしょう。これからは多くの家庭で長く読み継がれることでしょうか。

このところ闇バイト関連の凶悪事件で胸が重くなっている時に、たまたま尾島春夫さんの記事を目にして、少し心が持ち直しました。そう、スーパーボランティアと呼ばれた赤いTシャツの方ですね。様々な被災地に大分から軽のトラックで移動し、常に自炊と車中泊です。山口県で行方不明になった2歳の男の子を一人で捜し当てたことで、一躍有名になりました。今回の能登半島地震にも向かわれましたが、あれこれと制約も多く、残念ながら断念されたそうです。八十五歳の今も、地元で毎日海岸のテトラポットに集まっている大量のゴミを集めておられるとか。彼には絶対に守らなければならぬ決まり事があります。それは、お礼など一切何も受け取らないこと。水一杯、食事、入浴、お金など、もつてのほかに私などは、水一杯、食料、お風呂、お金のほか、何も持っていません。頂くのは「ごちそう、ボランティア先では何も求めない。人を頼ったり物を求めたりしてはいけません。」かけた情けは水に流せ、受けた恩は石に刻め、まさに一隅を照らす生き方です。

礼拝の話で、マザーテレサの逸話は私の定番の一つです。ある夜、一人の男性が訪ねてきて、「八人の子持ちのヒンズー教徒の家族が、最近何も食べていません。食べるものがないのです。」と伝えて来ました。そこでマザーは、その家族の一食に足りるほどの米を持っていき、目だけ飛び出し、それを半分に分けて出て行きました。しばらくして戻ってきたので、どこに行ってきたのかを尋ねました。母親は「彼らもお腹を空かしているのです。」と答えました。「彼ら」とは、これもまた、八人の子どもが在る隣人のイスラム教徒の家族のこと。この母親はそのことを知っていて、僅かの米を分かち合うことを躊躇なくしたのです。どんなに貧しくとも、隣人と分かち合う喜びを選ぶことは何と幸せなことでしょうか。これまた一隅を照らす灯。

園では運動遊びや体操を通して身体機能を高めています。一番自然に取り込めるのは、やはり自由遊びに集中しているときではないでしょうか。起伏のある坂道や土手の上り下り、雲梯渡りやスクーター漕ぎなど、指示もなく友だちと夢中になって取り組んでいる遊びの中こそ健康やかな体は作られていくと思います。寒暖の差を感じるこの頃、突然の発熱も多くみられる時期です。子どもたちはなるべく薄着を心がけ、うがいや手洗いの励行を続けて冬に備えてまいりましょう。

学園長

みんなで食べるって美味しいね！！

園では年長児が中心になって4月に田植えを行いました。小さい苗が大きく成長し、夏の終わりに収穫(稲刈り・脱穀)そして、飯ごうでお米を炊いておにぎり・スープパーティーを行いました。子どもたちはパーティーが大好きです。みんなでスープに入れる野菜を給食室からかりてきて、触ったり匂いを嗅いだり名前の当てっこゲーム等をワイワイ言いながら楽しみました。役割を分担し、米を洗ったり、野菜を切ったり、飯ごうを薪火の上に乗せたりします。火の煙に巻かれる経験も少ない子どもたちは、「くさ〜い！」「なんか目から涙が出る〜！」などと、口々につぶやきながら米が炊ける様子を見守ります。「見て見て！飯ごうの蓋から煙(湯気)が出てきてるよ！」「(ご飯の)においがしてきた！」と様々な変化もみんなで楽しめます。蓋を開けてふんわりと炊き上がったご飯を見ると、みんなの顔に嬉しい笑みが広がります。(先生たちは無事に炊き上がった安堵の表情)自分たちで切った野菜で作ったスープと白いおにぎりを感謝をもっていただきます。いつもはおかわりしない子も、この日はおかわりももらったりして

「楽しく食べる子供」に成長するための

5つの目標

- 食事を味わって食べる
- 食事のリズムがもてる
- 食生活や健康に主体的に関わる
- 一緒に食べたい人がいる
- 食事づくりや準備に関わる

ピククリさせたりするのもあるあるです。食事作りや手伝いは子どもたちにとって魅力的な活動となり、友だちと一緒に準備したりすることで満足感や達成感を得る経験となりました。運動会でも食に係わるテーマで表現やゲーム等を作っていたこともあり、食べ物に興味・関心を持って行けたのではと感じています。田植えから収穫、おにぎりを作るまでの経験を通して、「みんなで食べて美味しいね！」一緒に食べる仲間がいることに感謝できる経験となりました。

園長